

どうぶつこうえんニュース

Chiba Zoological Park News

No. 15

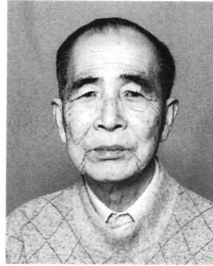
どうぶつと私…(10)

Animals and I

雪のあとのおくりもの

高橋 敏夫

(財)日本野鳥の会監事



ことし(平成4年)の2月1日は、前夜からの雪が降りつづき、2年ぶりの大雪、6年ぶりの積雪量とのことであった。

雪の後は、鳥たちが採餌に忙しくて人影を恐れないのか、探鳥の好機である。

3日の日、手賀沼遊歩道を探鳥。バフ色のベニマシコとの出会いは、ここでは初めて、アオジの数の多さに驚き、2～5ぐらいの小群での採餌行動に、それなりの意味を考え、影響もなさそうな、ハシビロカモだが、いつもの10倍もの数で採餌にしきりだった。

雪の後の、よきおくりものを楽しんで、帰宅したところ、雪のため、アオバズクの巣が壊れ、使用不能との知らせを受けた。

この、アオバズクの巣は、神社の本殿前にある、モミジの樹の横枝に生じた樹洞(高さ約9m)で、私の家の近く。

私は、東京からこの地に居を移して24年を経過、その間毎年この巣を見てきた。

手賀沼沿いにアオバズクの巣は4ヵ所認められたが、現在では、この巣1つだけ残り、私たち鳥仲間だけでなく、多くの方々が楽しみにし、大切にしてきたものだ。

早速、仲間と見に行き、折損した樹片をとりあげてみたが、修理は不能、新しく径40cm、長さ80cmの樹をくりぬいて樹洞を作り、これを巣箱としてかけることとした。

実は、こんなこともあるかと、巣の近くにアオバズク用の巣箱をかけてきたが、数年たつが、全然、使用してくれない。今度、かける巣箱は使用してくれるだろうか、不安の方が多かった。

たまたま、山階鳥類研究所から、アオバズク用の巣箱の試作品が届いた、使用してみてもとお話を頂き参上。その席に、佐藤文男先生がおられ、フクロウ類について、いろいろとご教示を頂き、特に、フクロウ類の巣箱には巣材を入れてやらないと利用しない、木屑を入れるよう指導をうけた。

おかげで、私たちがかける巣箱をアオバズクが利用してくれる可能性がでてきた。

アオバズクは、4月の末に来ます。何千キロもの長い旅をたどりついたときは、羽がボロボロになっているとのこと。

今年も、きっと、その姿をみつけて、来ましたよっと、お知らせ下さるだろう。

目 次

表紙・マンドリル…………… 1

どうぶつと私(10)…………… 2
雪のあとのおくりもの

グラビア…………… 3
ハシビロコウ

特集・新春特別展…………… 4

写真コンクール…………… 5

飼育レポート…………… 6
「ルリコンゴウインコの繁殖」

動物公園の動物⑩…………… 7
動物公園の施設⑩

動物公園日誌から…………… 8

飼育よもやま話…………… 10

健康管理センターから…………… 11

表紙の動物説明

マンドリル

アフリカ大陸のカメルーン南部からコンゴにかけての森林に生息する地上性のサルで、オスは体の色彩がとても美しく、また体重も50kgにもなりますが、メスはその半分もありません。小さな群れをつくって生活し、果実や木の実、昆虫、小動物など何でも食べる雑食性です。

撮影・宮川千尋

動物飼育数

(平成4年1月31日現在)

哺乳類	75種	443点
鳥 類	95種	388点
爬虫類	6種	47点
両生類	1種	2点
魚 類	1種	2点
総 計	178種	882点

ハシビロコウ

Whale-headed Stork

コウノトリ目 ハシビロコウ科



撮影・宮川千尋

タンチョウの側に展示されている大きな鳥はクチバシが異常に大きいのでハシビロ（嘴広）コウ、また、オランダの木靴に似ているので英名をSHOE-BILLと呼ばれています。この嘴は生息地であるアフリカの湿原で肺魚やナマズを食べるときに威力を発揮するのです。いつもじっとしているのはナマズや肺魚が泥の中で動くのをじっと待っているのです。現地では特殊な環境にのみ生息するため減少しており、国内にも当園の4羽と他に1羽が飼育されているに過ぎません。今だ繁殖した例がありませんのでぜひトライしてみたいものです。

（宗近 功 Isao Munechika）

ニホンザル

Japanese Macaque

千葉市動物公園では毎年1月に干支にちなんだ特別展を開催しております。今までに、世界の野生ネコ、世界のウサギ、恐竜、世界のへび、ウマ、ヒツジ（小冊子だけ配布）、そして今年はサル年なのでニホンザルをテーマにしました。それぞれすばらしい写真パネルや模型を使って、わかりやすく解説しています。

ニホンザルは、日本人の中でその存在をよく知っていますが、野生での生態や特徴は意外と知らない人が多いのではないのでしょうか。日本人とサルのつきあいは長く、縄文時代の貝塚からサルの骨が多くみつき、サルを食べていたと考えられています。戦前までサルの肉は食べられ（特に東北地方）、また薬としても利用されてきました（肉の塩漬け、頭の黒焼きなど）しかし、多くの地域（特に西日本）ではサルを撃つことをきらっていました。サルはしぐさや姿が人に似ているので昔話や伝説の主人公として人気があり、「サルカニ合戦」などに登場します。サルの芸をさせる「猿まわし」は12世紀頃から知られています。

ニホンザルは世界のサル約180種の中で最も北に住むサルで、青森県下北半島がその北限です。南は鹿児島県の屋久島で、ヤクニホンザルと呼ばれ、本土に住



カキを食べるメスザル（千葉県高宕山）

むサルより体毛の色が少し濃く、毛が粗くて長いため亜種に分けられています。体重はオスで10～15kg、メスで8～10kgで、ヤクニホンザルはこれより少し小さくなります。

ニホンザルは森に住み、雑食性で、木の実、果実、芽、栗、樹皮、キノコのほか、昆虫、クモ、サワガニ、貝、魚なども食べます。秋から冬にかけて交尾し、春から夏にかけて出産します。妊娠期間は約6ヶ月で、普通1頭、まれに双子を産みます。メスは6才くらいで子を産み、オスは8才くらいで社会的にもオトナになります。

野生のニホンザルは10頭前後から170頭前後までの群れを作っています。群れは祖母、母、娘、



双子を抱く母ザル（青森県下北半島）

小さい息子などの母系血縁集団のいくつかが集まったもので、何年かごとに入れかわるオトナオス数頭が加わって構成されています。群れの個体間には決まった順位がみられ、順位の高いオトナオスは外敵を追い払ったり、ケンカの仲裁をすることもあります。

ニホンザルは南は鹿児島県屋久島の常緑広葉樹林から北は青森県下北半島の落葉広葉樹林、また日本海側の豪雪地帯にも住んでおり、その分布は自然林の分布とほぼ一致しています。千葉県にもニホンザルが住み、北は鹿野山、大福山から南は鋸山、高宕山、清澄山にかけて広い範囲に分布し、約50の群れが住んでいます。



木をかけおりるオスザル（鹿児島県屋久島）

このようにたくさんの群れがとなりあって住んでいる地域はめずらしいものです。高宕山のサル生息地は国の天然記念物に指定されています。

この100年の間に山の自然林はスギ、ヒノキなどの人工林に変わり、またゴルフ場、スキー場などの開発により、ニホンザルの住処がうばわれ、現在多くみても4～5万頭と推定されています。また、野生のサルは時には農作物を荒らすため、いろいろな予防策が講じられていますが、近年毎年5,000頭ずつ捕獲され、減少に拍車をかけています。

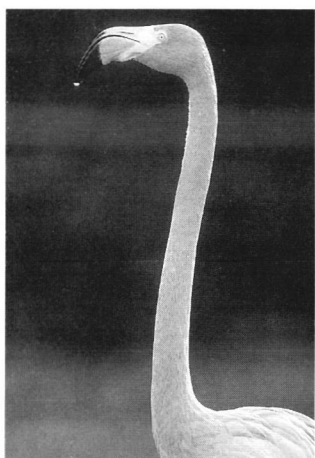
写真提供 丸橋珠樹、松岡史朗、池田文隆 敬称略

動物公園写真コンクール 入賞作品

POHOT CONTEST



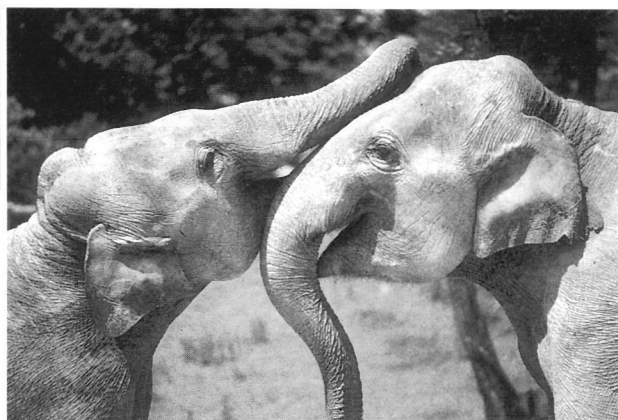
銀賞 仲よし 清水勝彦



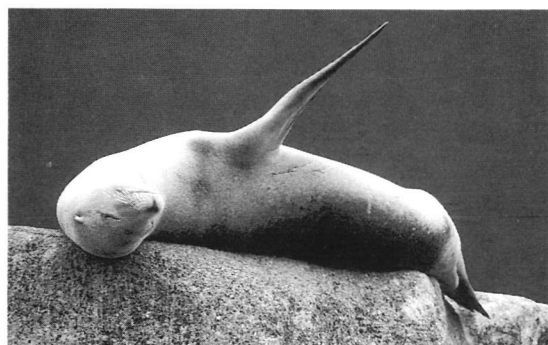
銅賞 Zの魅力 木村暢宏



銅賞 デュエット 雑賀一郎



金賞 仲間 広沢由美



銀賞 ストレッチング 斉藤明義



銅賞 怒り 斉藤秀郎

今回も、沢山の応募作品が集まりましたが上位入賞者の作品の質は、年々向上してきたように思われます。

写真というのは、レンズを向けた先にある物は、写ってしまいますので、どうしたら画面の中から、余計な物、つまり写したくない物を省くかということになります。

必要な物、写したい対象を的確にとらえる眼と、構図のとり方によって、一枚の写真から受ける印象は、大いに違ってきます。

そういう見方や写し方など、総合的に判断してみても、今回の上位入賞者は、全て合格点に達していると思います。

今後、更に腕をふるった応募作品が、沢山集まることを楽しみにしております。

動物・自然写真家 吉野 信



特別賞 大画面 掛端和貴 (敬称略)

ルリコンゴウインコの繁殖

Breeding the blue-and-yellow macaw

「子ども動物園」の門をくぐると、すぐ左手に見えるのが、「ゾウガメとインコの森」です。そこには、5種類
の大型インコが飼育されています。今回は、その中で
も、初めて繁殖に成功したルリコンゴウインコについ
て、お話しします。

ルリコンゴウインコは、背中や尾が青く澄んだスカ
イブルーで、腹部はゴールドイエローの、見事なま
でに美しい鳥です。南アメリカのアマゾン地方に住み
主に木の実を食べています。最近、森林の伐採とペッ
ト用の雛の採取により数が減ってしまいました。動物
公園では、この絶滅に瀕した鳥の繁殖に力を注いでい
ます。4～5年前からルリコンゴウインコだけ、繁殖
のため日中もインコ舎内で飼育しています。また、巢
箱も設置しました。すると、産卵があり、孵化もしま
したが、一度も育ったことはありませんでした。

今回まず、1991年6月に、新しい大きな巢箱（縦・
横各50cm、高さ90cm）をインコ舎内に設置しまし
た。巢箱の中には木くず（チップといいます）を敷き詰
めました。

10月初旬になると、雄・雌とも頻繁に巢箱に出入り
するようになり、特に雌は、やがて巢箱内に入ってい
ることのほうが多くなりました。

10月20日、いつものように舎内の掃除をしていると
止まり木から地面に降りてきてまでも雄が攻撃を仕掛
けてきました。そこで、巢箱内をのぞいてみたところ
卵が2個あるのが確認できました。

10月29日には、「ピーッ、ピーッ」としっかりした声
で鳴いているのが聞こえました。けれども、巢箱内を
のぞくと、親を刺激することになるのでのぞきません
でした。この日を孵化日としました（1日令）。

孵化して2週間ほどたった頃、突然鳴き声が止んで
しまいました。コンゴウインコの雛は、成長過程で鳴
かなくなる時期があるという報告があり、まさにその
とおりでした。孵化時の体重は他の報告では25gほど
です。



写真1
37日令

12月4日、舎内の掃除時、突然「ギャッ」という大
きな鳴き声が聞こえました。巢箱内は親の固いガード
もあり、のぞくことは出来ませんが、できるだけカメ
ラを巢穴に近付け写真撮影（ストロボ使用）を行いま
した（37日令）。写真によると（写真1）、嘴は既に上の
ほうが下より大きくなっており（孵化した頃は、親か
ら餌をもらいやすいように下のほうが大きい）、羽毛は
翼および尾部が既に水色の羽で覆われていました。

59日令になると、翼は水色だけでなく黄色い羽毛も
観察できました。



写真2
68日令

写真2では、巢穴から顔を出していますが、嘴も爪
もしっかりしていました（68日令）。



写真3
72日令

72日令になると、写真3のように巢穴に両足で止ま
っており、巣立ちが近いことを感じさせました。

1992年1月21日にまず1羽目が巣立ち（85日令）、さ
らに、26日には残りの2羽も巣から出て（87、88日令）
現在に至っています（舎内の止まり木で休んでいます）。
なぜか、親が雛の羽毛を嘴でむしり取ってしまうので、
頭や背に羽がほとんどないのが残念ですが、3羽とも無
事巣立つことができました。

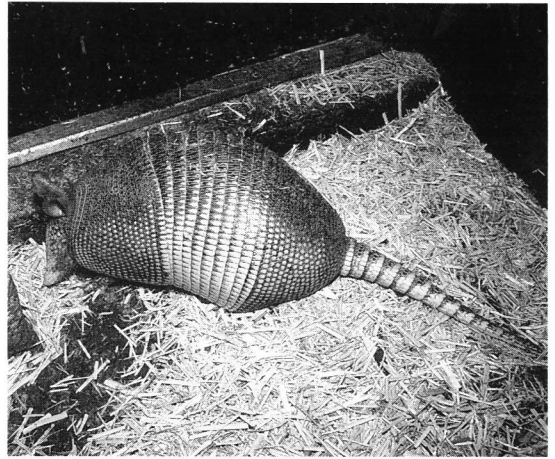
みなさんにご覧いただける日も近いと思います。ご
期待下さい。（高橋宏之 Hiroyuki Takahashi）

動物公園の動物 ⑩

Animals in the Chiba Zoological Park
～ココノオビアルマジロ～
Nine-banded Armadillo

アルマジロは分類学上はアリクイやナマケモノと同じ貧歯目に分類され、現在20種が生息しています。よく皆さんがアルマジロというと「ボールの様に丸くなる動物」といわれているのはミツオビアルマジロで、他のアルマジロはボールの様には丸くなりません。

当園で飼育されているのはココノオビアルマジロで、胴部に九つ帯びがあるところから命名されています。アルマジロの中で最も生息域が広く、他の種が南米に限られているのに対し、北はアメリカ合衆国の南東部の州にまで分布しています。実はこの北アメリカへの進出は人の手が介在しているのです。ココノオビアルマジロは土中の虫などを食べています。このことに目を付けて畑の害虫駆除にと導入したのですが、このココノオビアルマジロは環境への順応が早く、あっという間に広がってしまいました。現在アメリカでは半ば害獣の様に扱われています。しかし、現在ココノオビアルマジロは医学上大変重要な実験動物として注目されています。この動物は必ず4子を産みますが、これが1卵性4子なのです。同じ遺伝子を持った子が簡単に4頭も手に入るわけです。この他、病気の実験にも



最適としてアメリカに止まらず、イギリスやドイツの研究所でも飼われています。ところが研究所や動物園で飼育されているココノオビアルマジロはほとんどが野生から採ってきたものなのです。野生では環境への順応が早く爆発的に増えますが、飼育下では全くと言って良いほど繁殖は困難です。日本の動物園での繁殖例もほとんどが導入時に既に妊娠していたものと言われています。野生において大量に生息している状態が続く内は、動物園にも供給できますが、これからは動物園の飼育下で自給するための方策（基礎的な研究や観察）を考えることも必要かと思います。

（清田義昭 Yoshiaki Kiyota）

動物公園の施設 ⑩

Facilities of the Chiba Zoological Park
～トーテムポール～
Totem Pole

動物公園の小動物ゾーンを歩いていると、高さ7m 直径1.2m、重さ1.3tもある巨大な彫刻が目に入ります。それがトーテムポールです。

ところで、千葉市がどこの都市と、姉妹都市を提携しているかご存知ですか。

提携の早い順に、パラグアイ共和国のアスンシオン市、カナダのノースバンクーバー市、アメリカ合衆国のヒューストン市、フィリピン共和国のケソン市、そして中国の天津市です。

このトーテムポールは、姉妹都市交流成立20周年記念を祝して、ノースバンクーバー市から、平成2年4月に贈られてきたもので、約1ヶ月の船旅を経て、動物公園に運び込まれました。

トーテムポールは、カナダ原住民の遺産のシンボルとして崇拝されており、このたび贈られてきたものは一匹のビーバー、一人の女性、カラスの母親と赤ちゃんなどが彫られており、両市の友好のシンボルとして市民が集う動物公園に建立されたものです。



ところで、ノースバンクーバー市と動物公園の関係は、昭和60年、動物公園が一次開園する際に、カワウソのつがい譲りを受けており、今回のトーテムポールがカワウソ舎の前に建つことになりました。

動物公園には、このように寄贈された施設や、動物たちも数多くおり、現在の動物公園の完成に至りました。

来園される皆さんが、楽しんでもらえるよう様々な配慮をして整備しておりますが、今回のトーテムポールのような施設もあることを知っていただければ、幸いです。（高山 薫 Kaoru Takayama）

動物公園日誌から

From Zoological Park Diary

'91年 8 月 1 日～'92年 1 月 31 日

8 月 1 日 ファンボルトペンギンのヒナ、初めて泳ぐ



8 月 5 日 多摩動物公園から寄贈されたチリーフライング展示する

〃 ムネアカタマリン、繁殖する (3 頭)

8 月 7 日 ピグミーマーマセット、繁殖する (1 頭)

8 月 11 日 キングペンギン、換羽終了する

8 月 17 日 チンチラの仔、人工哺育をはじめる

8 月 19 日 レッサーパンダにフィラリア予防薬を投与する

8 月 20 日 セーブルアンテロープ、雄どうして角突きをしている

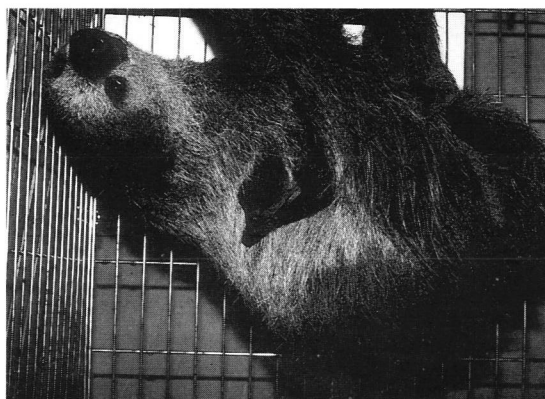
8 月 22 日 千葉市教育研究会理科部北部ブロック研修会を子供動物園で行う

8 月 24 日 「動物公園ワンポイントウォッチング」開催 (カピバラ)

8 月 26 日 暑さのためチンパンジーの動きが悪い

8 月 27 日 今年生まれのニホンザルの仔どうし、互によく遊ぶようになる

8 月 28 日 智光山こども動物園の園長と副園長、来園



フタユビナマケモノ

する

9 月 1 日 フタユビナマケモノ、繁殖する (1 頭)

9 月 3 日 動物愛護週間特別展「ツシマヤマネコと仲間たち」開催 (～29日まで)

9 月 4 日 アメリカアカリス、繁殖する (2 頭)
熊本市動物園副園長、来園する

9 月 5 日 アシカ全頭にフィラリア予防薬を投与する

9 月 7 日 アビシニアコロボス、繁殖する (1 頭)

9 月 11 日 アフリカハゲコウ、巣づくりを始める

9 月 13 日 トナカイの仔、搬出する

9 月 14 日 トナカイ雄の袋角、むけはじめる

9 月 15 日 オセロットの雄、死亡する

〃 「敬老の日記念行事」開催

9 月 19 日 台風のため動物は全て早目に収容する
ゲルディモンキー、繁殖する (1 頭)

9 月 20 日 昨日生まれたゲルディモンキー、死亡する

9 月 22 日 チンチラの仔、初めてコンタクトコーナーで使用する

9 月 23 日 「動物愛護週間特別講演会」開催

〃 バードホールに放鳥したヤツガシラ、死亡する

9 月 25 日 ワタボウシパンシェ、繁殖する (2 頭)

9 月 27 日 豊橋市動物園の杉本氏、3 日間の実習終了する



10 月 1 日 特別展「動物の大疑問」開催

10 月 4 日 ホシハジロの雄、新着する

10 月 6 日 ルリコンゴウインコ、巣作りを始める

10 月 10 日 シシオザルの雌 2 頭、アメリカ・シャイアンマウンテン動物園より到着する

10 月 11 日 10 日に続いてシシオザルの雄 1 頭が枚方パークより到着する
アマサギ 2 羽、保護受けする

10 月 14 日 キジ類、ワシカ類にニューカッスル病の予防注射を行う

10 月 15 日 ムフロン、アクシスジカ、ホンドザルなど 28 頭の動物を搬出する

10 月 16 日 ゲルディモンキー 2 頭、新着する

10 月 17 日 シロガオマーモセット 4 頭、ヤツガシラ 2 羽新着する

10月20日 マレーバクに破傷風予防ワクチンを注射する
 10月21日 セーブルアンテロープ、ハワイガンなど16頭・42羽を搬出する
 10月26日 「動物公園ワンポイントウォッチング」開催（ダチョウ）
 10月30日 ハイロヤケイの雄、鳴きだす
 11月1日 ルリコンゴウインコのヒナの鳴き声を確認する
 11月3日 「秋のクイズラリー」開催
 11月4日 ムフロン雄の角突き、少しおさまってくる
 11月8日 ゾウ舎の床暖房の設定温度を上げる
 11月13日 レッサーパンダ雌1頭、死亡する
 11月14日 バードホールのカンムリバト、巣材を運んでいる
 11月16日 「動物公園ワンポイントウォッチング」開催（フラミンゴ）
 11月18日 サル山のサルを全頭捕獲し、破傷風予防注射と入墨を行う
 11月20日 ショウガラゴ1頭、死亡する
 11月25日 金沢動物園の大坂氏を招いて飼育研究会を行う
 11月30日 キリン雌、発情する
 12月4日 保護したタヌキ2頭、放獣する
 12月7日 ダチョウヒナ1羽、搬出する
 12月8日 「クリスマスのつどい」開催
 " ジェンツーペンギン1羽、死亡する
 12月10日 ツミの雌1羽、保護受けする
 12月13日 ハシビロコウ、夜間は東屋に収容する
 12月16日 シシオザル3頭、検疫明けで比較舎に移す
 12月19日 ケープペンギン、産卵する
 12月21日 「動物公園ワンポイントウォッチング」開催（ゾウガメ）
 12月22日 ニホンザル、発情期のためケンカが多い
 12月23日 インコ舎に止まり木3本設置する
 12月24日 オオカンガルー1頭、麻酔して抜歯する
 12月27日 カンムリバト、抱卵をやめる
 12月28日 ペンギン放飼場の消毒のため、全羽屋内展

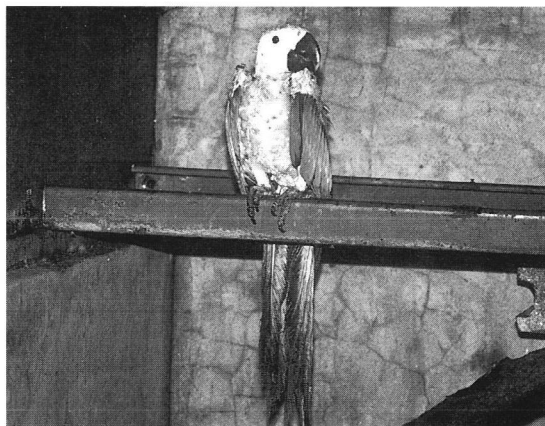


新春のつどい開催風景

示とする
 12月31日 ルリコンゴウインコのヒナ、巣穴より顔をだす
 1月4日 新春特別展「ニホンザル」開催する
 1月5日 新春特別行事「動物公園新春のつどい」開催する
 " ルリコンゴウインコのヒナ、1羽巣内から顔をだす
 1月7日 アカコンゴウインコ、産卵する
 1月11日 アカコンゴウインコ、2卵目産卵する



1月12日 「バードウォッチング」開催
 1月13日 マーモセット類、クスクスなど計34頭を搬出する
 1月14日 フタユビナマケモノの親子を展示する
 1月15日 ショウガラゴ6頭、新着する
 1月19日 ケープペンギンのヒナ、人工育雛とする
 1月20日 ワオキツネザル放飼場の止まり木とロープを新しくする
 1月21日 ケープペンギン、2卵目の嘴打ちが始まる



1月22日 ルリコンゴウインコのヒナ1羽、巣から出て舎内を動きまわる
 1月23日 トナカイ雄の右角落ちる
 1月25日 「動物公園ワンポイントウォッチング」開催（ニホンザル）

飼育よもやま話

Animal Episode

トナカイのツノは赤信号？

Do antlers of the reindeer mean a red light?

トナカイは北極を取り巻くユーラシア、北米大陸北部のツンドラ地帯に生息しています。トナカイのイメージは、クリスマスにサンタクロースのそりを引いてプレゼントを運ぶやさしい動物の印象があるかもしれませんが、その印象のままでいる期間は、春から秋の初め(2月から9月の前半)までで、それ以後オスのトナカイはとても危険な動物になるのです。

春先はまだ角がはえてなく、5月ごろ袋角(角が皮で被われている角)がはえはじめます。この袋角の時期は、放飼場にトナカイと一緒に出てもオスのギンとメスのナウシカの体をさわることでもできます。特にオスのギンの方が人に馴れていて、さわってもあまり逃げることはありません。ところが9月の中旬ぐらいになるとギンの目つきが変わってきて、角を放飼場に立ててある丸太や木にこすりつけて袋をはがしはじめます。こうなると放飼場に一緒に出ることはできなくなり、朝夕の放飼場と寝室の出入れも大変危険になります。朝は放飼場に出す時、扉を開いてすぐに隠れて、エサを食べている間に扉を閉めに行きます。10月・11月になるとエサを食べようとせず人間に襲いかかってきま



角が落ちると
おとなしい
ギン君です。

す。この時期はメスのナウシカに気をとられるのを待って、すばやく扉を閉めに行かなくてはなりません。夕方、寝室に収容するときは、部屋の内側から扉にヒモを付けてギンのはいれるだけ扉を開いて収容し、ヒモを引いて扉を閉めます。

この時期に、ギンはナウシカを追いかけて交尾をします。終わってもまだ追いかけて交尾をしようとしませんが、ナウシカは逃げ回り、12月ごろになるとギンを角で押しつかえたり、後足で立ち上がり前足で蹴ったりして、ギンが近付くのを拒むようになります。

今年は、1月23日に右角が、翌24日に左角が落ち、また顔をさわられる様になりました。

(鈴木克典 Katsunori Suzuki)

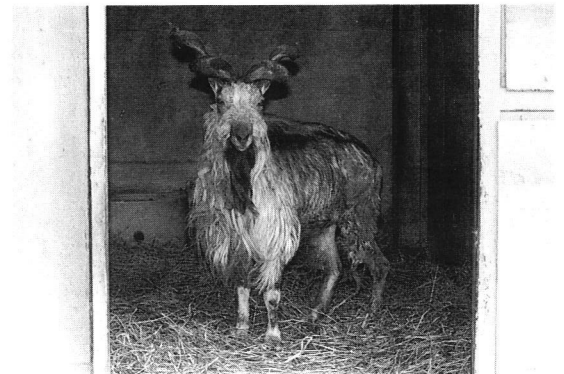
陽のあたる生活へ“出発”

Departure for a new life in a place in the sun

私がこのマーコールという動物を担当して、はや9ヵ月程が経過しました。この知人ぞ知る山羊の一種、マーコールは一次開園前に雌雄各1頭が来園し、当時は幼い顔をした子供でした。その後雌が死亡し、今残る雄のみとなってしまいました。彼はムフロン舎内の一角で飼育され、この間に腰を悪くしたものの、元気に暮していました。

彼はアクセント、あるいはマーちゃんと呼ばれ、普段はおとなしいのですが、機嫌が悪かったりすると、“ものわりの悪いマーコール”に変身し、飼育係を威嚇します。それでも彼の好物である草食獣用ペレットを与えた時は美味しそうに食べ、担当者のことなどおかまいなしという具合です。でも彼には親しみを感じるので、なるべく一緒にいてやることにしています。

こうして来園者が見る表の世界に出ることのなかった彼に、ある動物園からお誘いの声が掛りました。搬出日も平成3年12月中旬と決まり、送り出す前に蹄を切つてやろうと考え、他の飼育係の人達の協力を得て削蹄を行いました。無事に終わったかに見えたのですが、捕獲の際前足を痛めたらしいのです。検査の結果足の指の骨折と判明しました。



結局、12月の移園は延期となってしまう、痛そうに前足をあげ、いつも食べる餌もあまり食べない状態が続きました。私も心配で、一日も早く治るように願うばかりでした。

そうして、1月中旬になって状態がよくなったので獣医師の指導のもと、バンテージを取るようになりました。骨折は治っているようでしたが完治とはいかず、まだ足元に不安が残っています。今は少し良くなってきているので、マーコールの“陽のあたる生活”も近づいてきていると思われます。新たな出発まで皆さんの応援を期待しています。がんばれ“マーコール”。

(水上恭男 Yasuo Mizukami)

健康管理センターから

From the Animal Health Center

ビー^バ歯ー

Teeth trouble of a beaver

小動物ゾーンのビーバー池には、現在アメリカビーバーのメスが2頭います。このうち大きい方の個体が昨年の7月に下あごの右側の門歯（前歯）が異常に伸びていて上あごに食いこんでいるようで、よだれがよく出ているとのことで検査をすることになりました。

まず池の水を抜いて網でビーバーをつかまえ、麻酔薬を注射しました。麻酔がきいてから口の中をみると、予想通りきれいなオレンジ色をした下あごの門歯が上あごを突きぬけてポッカリと穴があいてました。

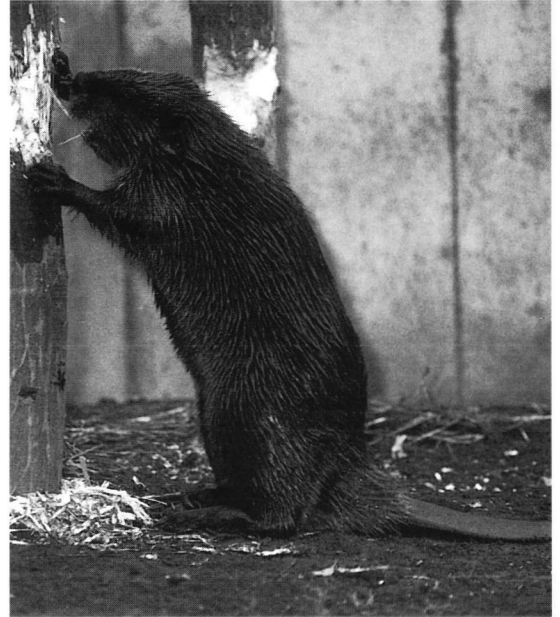
ネズミに代表されるげっ歯類の門歯は、人と違って一生を通じて伸び続け、そのスピードは週に数mmといわれています。この歯はげっ歯類のかじるという習性に欠くことができません。

このビーバーの場合、上あごの右側の門歯が根元で折れ下との咬み合わせがうまく合わず、下の門歯がすり減らずに伸びすぎてしまったのです。

そこでタオルを巻いた竹の棒をビーバーの口にかませ、電気ノコギリで正常な長さに切りそろえ、傷の消毒をしました。

その後折れた上の歯が伸びてくる予定だったのですが、1ヵ月ぐらいい過ぎるとまた下の歯が互い違いになってしまいました。それでまた麻酔をかけて歯を切りました。

結局、折れた右上の門歯は原因はわかりませんが全く伸びない状態が続き、1～2ヵ月ごとに歯を切る治



治ると元気なビーバーです。

療が続いています。当事者のビーバーは元気で食欲は変わらないのですが、何とも頭の痛いことです。

（中村 誠 Makoto Nakamura）

平成4年度行事予定表

愛鳥週間記念講演会	5月	秋のZOOクイズラリー	11月
羊の毛刈りと紡毛教室	5月	クリスマスのつどい	12月
動物を計る会	6月	新春特別展示	1月
サマースクール	7月	新春特別行事	1月
動物愛護標語募集	7月	バードウォッチング	1月
写真コンクール	応募は10月10日まで	ゆかいな森の音楽会	2月
動物愛護週間特別展示	9月	春のZOOクイズラリー	3月
敬老の日記念行事	9月	動物映画会	日・祭日・春、夏休み中
動物愛護週間特別講演会	9月	ワンポイントウォッチング	毎月第4土曜日
自然と遊ぶ教室	10月		

くわしくは市政だよりでお知らせします。



オジロワシ